

中在家南遺跡

中在家南遺跡は、昭和63年から平成5年にかけて発掘調査が行われました。弥生時代・古墳時代を中心に中世まで続く集落と墓地などからなる遺跡です。自然堤防からは、弥生時代の遺物を含む土層と墓地、古墳時代の方形周溝墓等が発見されました。河川跡からは木製品が多量に出土しており、東北の木製品を究明するうえで重要な遺跡です。出土遺物の多くは市指定文化財です。



河川跡全景

高田B遺跡

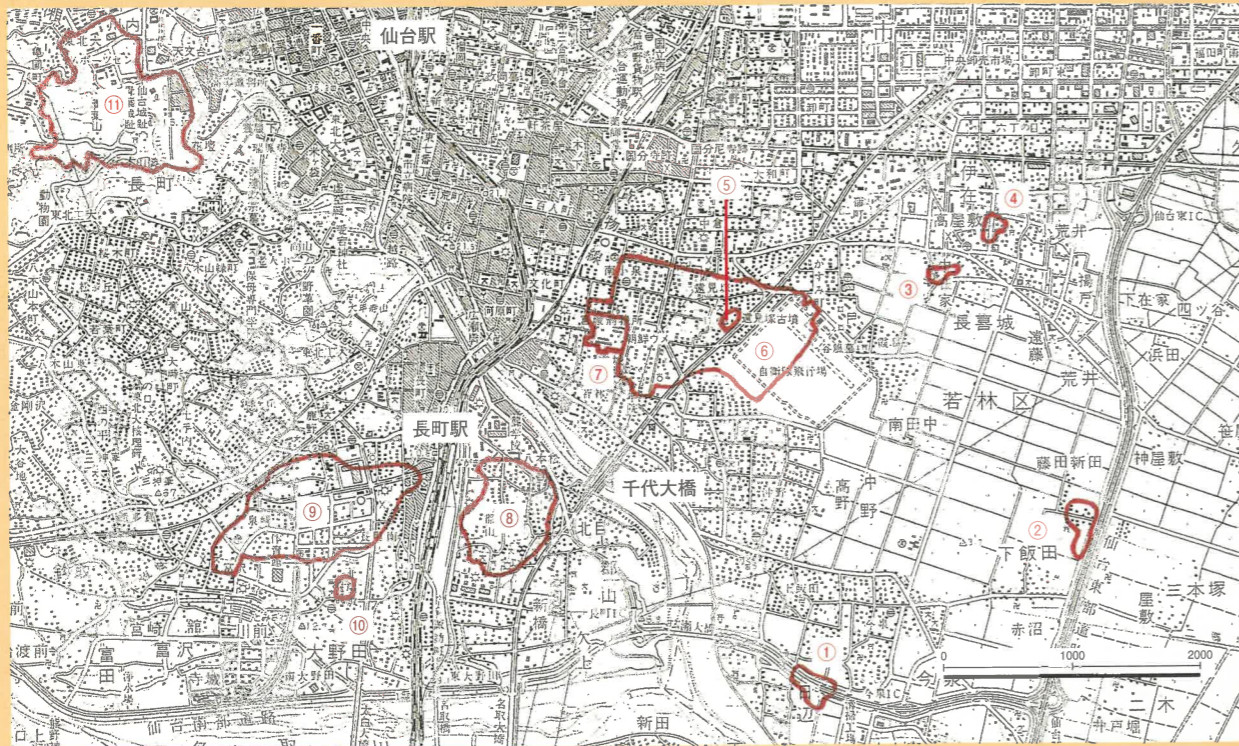
高田B遺跡は、平成3年から平成5年にかけて発掘調査が行われました。

縄文時代後期の住居跡、弥生時代中期の集落跡と水田跡、弥生時代を中心とした多量の遺物を含む河川跡、中世の建物跡と道路跡、中・近世3時期の水田跡が発見されました。東北地方の弥生時代と、周辺の歴史を知る上で重要な遺跡です。



水田跡の調査風景

中在家南遺跡・高田B遺跡と周辺の遺跡



No	遺跡名	立地	No	遺跡名	立地
①	高田B遺跡	自然堤防、後背湿地	⑦	若林城跡	自然堤防
②	藤田新田遺跡	浜堤	⑧	郡山遺跡	自然堤防
③	中在家南遺跡	自然堤防、後背湿地	⑨	富沢遺跡	後背湿地
④	押口遺跡	自然堤防、後背湿地	⑩	大野田官衙遺跡	自然堤防
⑤	遠見塚古墳	古墳	⑪	仙台城跡	段丘
⑥	南小泉遺跡	自然堤防			



木といきる



いつもそこには木があった。

はじめに

日本列島は、多様な気候のもとに様々な動植物がみられ、豊富な自然に恵まれています。こうした環境において、日本列島には古くから木工文化が根つき、私たちのまわりには、今も昔もたくさんの「木」が使われています。

弥生時代以降の出土木製品を通して、私たちの暮らしと木との深いつながりを感じていただければ幸いです。

活かす

～ 後世に活かす ～

出土木製品は、長い間土に埋まっているうちに、土中の水分を含み、傷んだ状態になっています。そのため、そのまま放置すると、木材内部の水分が蒸発し、収縮や変形が生じます。

出土木製品の保存処理

- 歴史的価値がある文化財としての形状維持
- 分析資料として研究価値を失わないこと
- 強度の向上および色調や痕跡の維持

郷土の歴史遺産を
後世に継承する

(例) 遺物発見



高田B遺跡 漆器椀出土状況



富沢遺跡 田下駄出土状況



木製品および土壌の保護



水につけて保管する。(沼向遺跡 漆器椀)



発泡ウレタン等で保護する。

事前調査

(内部調査、含水率の測定等)

木製品の状態により保存処理方法を選択する。

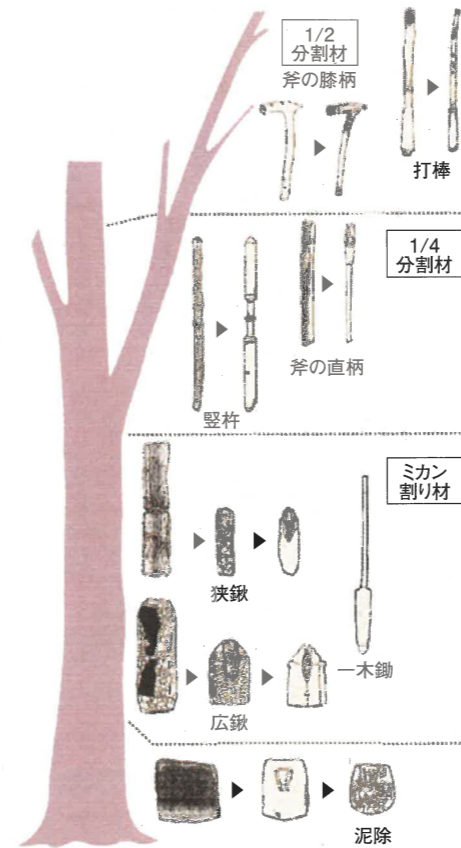
- ◇ポリエチレングリコール含浸法
- ◇糖アルコール含浸法
- ◇真空凍結乾燥法
- ◇脂肪酸エステル法
- ◇高級アルコール法
- ◇など

農具・工具

弥生時代から古墳時代(約2200～1700年前)にかけて、水田稲作の開始と展開によって全体的な農業生産力が向上しました。それとともに、木製農具に様々な形態のものが生み出されました。



弥生時代の木材利用と製作工程



どろよけ 泥除 (高田B遺跡) 古墳時代



河川跡からの遺物出土状況(高田B遺跡)

農耕具の歴史

弥生時代の農具は、木製品が主役で、強靱なクヌギ等を用いることが多かったようです。木製農具は、狭鋤・広鋤・又鋤などの鋤や鋤などがあります。さらに、古墳時代には、用途に応じて様々な形態が生まれました。他にも、田下駄・大足といった木製農具があります。田下駄は、泥田での刈り穂の時に活躍しました。

生活用具

生活用具は、多様な用途にあわせて、いくつもの形態があります。今日にいたるまで、先人たちは、豊富な知恵と創造力を発揮し、身近な木から必要な道具を作りました。



しつぎわん
漆器椀 (洞ノ口遺跡：中世)

椀では、黒漆と朱漆を重ねて塗ったものや、黒漆に朱漆で草や花の模様を描いたものが見られます。



はし
箸 (洞ノ口遺跡：中世)

箸は、板材を棒状に小割りしたあと、角張った部分を面取りするように整形しています。



まげもの
曲物の容器 (洞ノ口遺跡：中世)

まげもの曲物… 材や樹皮を円形に曲げ、底板を紐・釘等で結合した容器。古墳時代以降に出現。おけ、いづつ、桶や井筒、膳、盆、茶道用器など。



おしき
折敷 (洞ノ口遺跡：中世)

食器などをのせる縁つきの盆



しゃくし
杓子 (洞ノ口遺跡：中世)

飯を盛ったり汁などをすくったりする道具。「しゃもじ」ともいいます。



下駄 (沼向遺跡：近世)

台と歯を一木から作成した下駄で、連歯下駄といいます。また、別に作った歯を台に取り付けるものを差し歯下駄といいます。



よこぐし
横櫛 (洞ノ口遺跡：中世)

縦櫛は縄文時代から使われ、横櫛は渡来系の技術の系譜上にあるもので4世紀末ごろから普及しました。



たてぐし
縦櫛 (中在家南遺跡：古墳時代)

木簡・祭祀具

木簡とは、文字などを書き記した木の札のことです。日本では、飛鳥時代(約1400年前)以降に紙と並んで使用されました。内容は、役所間の連絡文書や記録、税物につけた荷札など種々のものがあります。

仙台城跡

平成21年の仙台城跡(造酒屋敷地区)の調査で、井戸跡から榎森家6代目の当主(1711~1749年に隠居するまで当主)である「榎森与左衛門」と書かれた木簡が出土しました。(近世)



「榎森与左衛門」

「御酒塩五升」

表に「御酒塩五升」(内容)
裏に「榎森与左衛門」(生産者)と書かれた木簡



「国分靄力谷村七」

「御年貢米四斗五升入」

表に「御年貢米四斗五升(一俵)入」
裏に「村名」と「人名」の書かれた荷札木簡

洞ノ口遺跡



しちれんとうぼ
七連塔婆出土状況 (中世)

木は、祭祀のためにも数多く利用され、農作物の豊穰を祈願するときや葬儀のときの供養として使用されました。



じゅふもつがん
呪符木簡 (中世)

こけら経 (中世)

富沢遺跡



「三斗三升」

(中世)

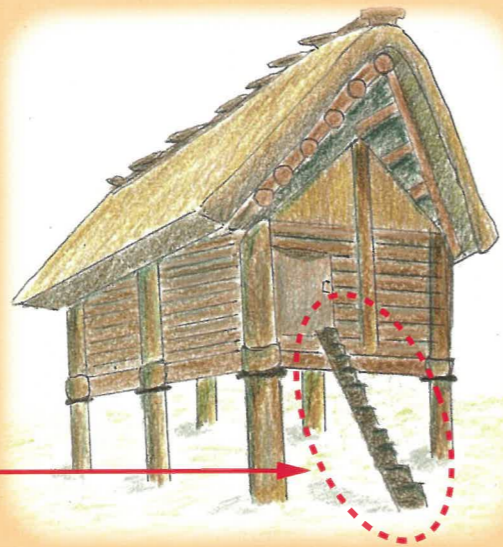
米俵に付けられていたと考えられる木簡。木簡には「三斗三升」と記されています。1斗は10升です。

すまい

発掘調査では、建物に使用されたと考えられる加工された板材等が見つかることがあります。高田B遺跡では、^{はしご}梯子が発見され、^{たかゆかしきょうこ}高床式倉庫で使われたものだと考えられます。



^{はしご}梯子 (高田B遺跡:古墳時代)



高床式倉庫



高田B遺跡 梯子出土状況



^{とびらいた}扉板 (中在家南遺跡:弥生時代)



扉板出土状況



^{けんちくざい}建築材 (中在家南遺跡:古墳~平安時代)



建築材出土状況

水

江戸時代になると、上水道の設備が整い始め、全国に水道設備が建設されていきました。時代劇などでよく見る^{ながや}長屋の井戸は、水が地下の木管の中を流れ、木管に開いた穴からくみあげる仕組みです。こうした水道設備にも木が利用されていたことがわかります。



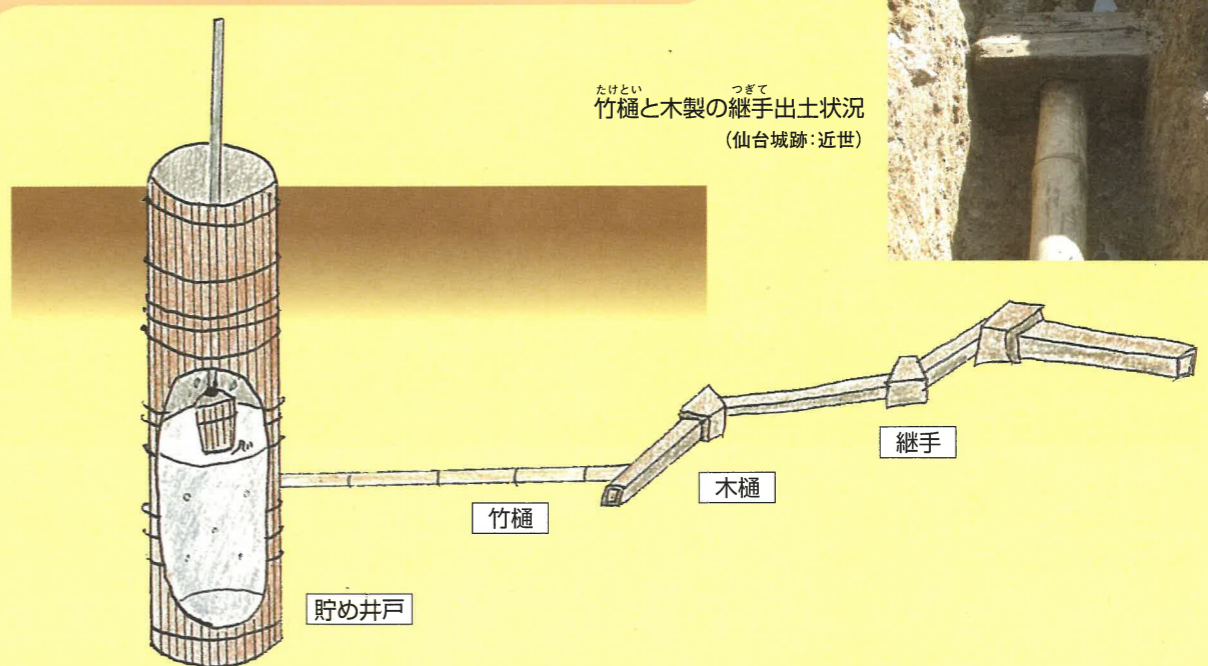
^{いどわく}井戸枠 (沼向遺跡:古墳時代)



^{ます}竹樋と木製の桁出土状況 (仙台城跡:近世)



^{たけとい}竹樋と木製の^{つぎて}継手出土状況 (仙台城跡:近世)



仙台市周辺で多く使われる木材

- ケヤキ… ^{きめ}木目が美しく、強固で加工が簡単です。容器類や調度品、^{せんぱく}船舶具等に使われました。
- クヌギ類… 耐久性があり、強固ですが割るのは簡単です。農具・工具に多く用いられています。
- クリ… やや硬く耐久性があります。農具・工具や建築材などに使われました。
- コナラ類… 重くて硬い木材です。杭や屋根材、農具・工具に使われました。
- マツ… 重くて硬く、木目が美しい木材です。農具や建築材に多く使用されました。
- スギ… 軽くて軟らかく、木目がまっすぐな木材です。割りやすく加工が簡単です。用途が広く、建築材や容器、近世では祭祀具などに使われました。
- カヤ… 弾力性・耐久性があり、加工が簡単です。容器、弓や^{きよ}斧の柄などに使われました。